

週刊新潮

8月2日号
400円



29

■頼れるドクターの先進治療 オートクチュール漢方治療編 ●永久保存版



ひがさ りょう
日笠 穰

■医学博士。兵庫医科大学非常勤講師。1979年兵庫医科大学卒業後、漢方医の山本蔵に師事。鐘紡記念病院漢方外来などを経て92年神戸で開業。6年前銀座に移転。1987年イスクラ厚生事業団漢方研究奨励賞受賞。

約40年前、漢方が保険に収載されることになり漢方医学は広く国民に理解されるようになった。しかし今、様々な要因から保険で漢方を使うことが不可能になりつつあるという。東京・銀座『香杏舎銀座クリニック』院長の日笠穰医師にお話を伺った。

保険では困難な「さじ加減」

—漢方の保険治療が難しいのは？
日笠医師 漢方で風邪に使われる葛根湯は7つの生薬(麻黄・生姜・大棗・葛根・芍薬・桂枝・甘草)で構成されているのですが、熱が高い時はこれに石膏を加え、胃の弱い人には麻黄や葛根を減らします。葛根湯という基本処方他に他の生薬を加えたり元からある生薬を取り除いたりして、病状や体質に合わせることを「さじ加減」といいますが、一人一人の患者に対して生薬を

東京・銀座●漢方医学をベースに体全体のバランスを考えて整体と丸薬で治療する

オートクチュールの漢方丸薬で治療効果をだす

患者様に「さじ加減」出来ない保険漢方薬では効きめがでにくい

さじ加減したオートクチュールの漢方治療が本来の漢方治療でした。

オートクチュール漢方

しかし今、一般に広く使われている葛根湯は7つの生薬がすでに煎じられてエキスになっているから加減ができません。いわば既製服のようなもので、ほとんどの医院で使われている保険漢方薬はすべてエキス漢方薬です。一方でさじ加減は既製服をベースに手を加えるオートクチュールの服だと思えばわかりやすいでしょう。この場合、生薬を混ぜ合わせて煎じ薬として飲むことになり、ところが残念ながら、オートクチュールの漢方治療してくれる医院はまずありません。生薬の知識がないから、いつも既製服を売っている店員さんが服の生地や縫製の知識に乏しいのと同じで、日頃から仕立て、つまり生薬の加減をしない生薬の知識が身につきます。でも実は、オートクチュール漢方よりさらに上質な漢方治療があります。

オートクチュール漢方治療

葛根湯を始めとするエキス漢方薬の多くは、感染症を治療する『傷寒論』という本由来の薬だから加減しても現代の難病には使えません。難病を治すには基本処方を変えなければなりません。その薬ではなく、オートクチュールの薬で生薬を自由に組み合わせる新しい漢方薬を作らなければなりません。しかし、これをするにはさらに高度な生薬の知識が必要で、一つ一つの生薬の性質を知り尽くし長年の経験がないと新しい薬は作れません。これらは保険漢方薬とはなりません。当クリニックはそういう現代の病気にあった漢方薬を作っています。しかもその薬は煎じ薬ではなく、飲みやすく工夫された漢方丸薬です。

オートクチュール漢方丸薬

生薬を煎じるのではなく、粉末にして混ぜ合わせ蜂蜜や米粉で丸い形を作り上げる漢方丸薬。日笠院長は一人ひとりの患者さんの体質や病態に合わせて大変な手間をかけ院内で丸薬を作っている。こうして作られた丸薬は煎じ薬よりよく効くという。一口に漢方薬といってもこれほどの違いがあるのだ。現在の難病に対するためにはオートクチュール漢方薬が有効なことが理解できるであろう。



作られた丸薬は飲みやすいように分包して渡される

香杏舎(こうきょうしゃ)銀座クリニック

完全予約制、自費診療専門

電話対応時間▶平日/午前10時~午後6時 土/午前10時~午後1時

休診▶土曜午後・日曜、祝日

料金▶初診料3000円、再診料2000円
お薬代800円~1200円

所在地▶東京都中央区銀座2-2-4
ヒューリック西銀座第2ビル3階

アクセス▶JR有楽町駅徒歩5分、
東京メトロ有楽町線銀座一丁目
駅4番出口より徒歩2分

電話▶03-6228-6763
http://www.higasa.com/

香杏舎銀座クリニック **検索**